

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102541		
法人名	(株)グループホーム		
事業所名	六条の杜（A棟）		
所在地	岐阜県岐阜市六条片田一丁目21－6		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 26 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 11 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyousoCd=2170102541-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

教育委員会の今年の目標として【職員全員が、利用者様を目上の方と敬える言葉遣い、声掛けができるよう接遇マナーを身に着ける】目標が達成できるよう、ロールプレイング等の勉強会を行い利用者様が不安なく安心できる生活が送れるよう支援していく。

栄養委員会の今年の目標として【昨年に使用したメニュー表の献立、分量の見直し職員不足にも対応できるよう改善する】昨年勉強した3代栄養素を基にメニューの見直しをし偏りを無くし利用者様が満足して頂ける食事作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

委員会が主体となって、接遇に係る研修を実施することにより、理念に基づいたケア実践の実現に取り組んでいる。また、利用者の人格を尊重する観点から、とりわけ、接する態度や言葉遣い等のロールプレイングを通じて、接遇場面における気づきにつなげるとともに、食事、入浴、排せつ等の日常的なケアの場面で、利用者に寄り添い、その人の気持ちに配慮した支援に努めている。また、利用者のエンパワメントの向上に資するべく、利用者の主体的側面に焦点を当てていく観点から、利用者が高いQOLを保ちつつ、生活の意欲や役立ち感を得て、生き生きとした生活が送れるよう、生活の中での役割や活動を大切にケアに取り組んでいる。中でも、屋外でのバーベキューやホーム内でのバイキングは、利用者にとって楽しい行事となっている。さらに、法人全体で人材育成に力を入れており、法人の幹部会議の中で職員教育、人材育成に係る指導があり、管理者の自己研鑽の機会も多く、職員の内部研修も充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き生きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の六条の杜の理念を申し送り後に復唱し改めて理念を心に刻みケアに入るよう心掛けています。	法人理念を基に、ホーム独自の理念を作成し復唱しており、暗記するほど理念の職員間での意識化ができています。理念に基づいた年度目標を各委員会で設け、研修や勉強会で、ケア実践に反映させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ、インフルエンザ禍の為、外出ができず地域との繋がりは持てていない。	自治会に加入しており、隣人との回覧板のやり取りはあるが、現在、コロナ禍の影響が続いており、地域行事への参加や、ホーム行事での地域交流は制限的な状況にある。今後、コロナ収束の際には、交流の拡充に向けてべく検討している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の家族様1名の出席があるのみ、議事録を郵送し情報を伺う事ができた。	会議では、利用者家族の参加があり、身体拘束や虐待防止の取り組み等について意見を交わしている。行政担当者や地域包括支援センターには案内を送っているが、出席までにはつながっていない。議事録については、利用者家族に配布している。	現在、コロナ禍の影響下にあり、行政担当者や地域包括支援センター、地域の団体役員等の参加が消極的であるが、今後、会議参加の促しを強化するとともに、議事録配布と意見収集の促し等、運営推進会議の活性化に向けた取り組みに期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方を受け入れ毎月生活保護の担当者と連絡を取り合っている。	介護認定の更新や生活保護受給者の手続等のため、行政担当者との連携をとる機会が多い。転倒事故等のアクシデントについてもルールに則り、報告している。また、市からも受け入れの相談を受ける等、協力関係を深めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、身体拘束ゼロの方針で、チェック表を作成。カンファレンスの際チェックしている。	現在、拘束の事例は無い。過去にもバルーンを抜去する場合等、拘束に関連する事例があったが、身体拘束をしない工夫について意見を交わし、アイデアを出し合うことで拘束しないケアにつなげている。毎月の会議にて、チェック表を用いて、日々のケアの振り返りを行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で研修を行い職員と情報共有したり、年2回虐待アンケートを取り防止に努めている。	定期的に虐待防止に係る研修が開催され、リモートによるオンライン参加も可能であるので、職員間の共通理解と虐待防止への意識を高めている。年に2回、虐待防止に関するアンケートを実施し、自己を振り返る機会がある。「ちょっと待ってて。」等の咄嗟に出る言葉については、その場で注意し合うようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおられる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書にて説明をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族様が面会時に要望を言われる事がありできる範囲で要望を聞いている。	面会の機会を捉え、利用者の日頃の様子等を報告するとともに、家族等の意見収集を行っている。面会に来られない家族に対しては、電話を活用した意見収集を行っている。家族からトロミやミキサー食の利用者への差し入れについて問い合わせがあり、助言する事で、利用者の食べる喜びにつながっているとのことである。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見のある職員には、管理者が話を聞いている。	毎月のカンファレンスにて意見を交わしている。年2回、職員の管理者面談を実施しており、意見・要望、レクリエーションやリハビリ等の業務上の提案を聞き取っている。法人の幹部会議や経営会議を毎月実施し、意見を共有するとともに、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回人事考課において面談をする際、意見提案を聞いている。	正規職員やパート職員等、各種の雇用形態があり、家庭の事情や職員自身の希望に応じて、短時間シフトを設ける等、勤務形態を配慮している。積極的な有給取得に配慮し、休みの希望日等も、なるべく希望通り組めるようシフトの工夫する等、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は経営や運営に関するレクチャーを月1回受けている。職員は認知症介護基礎研修eラーニングを受けている。	法人の幹部会議の中で、職員教育、人材育成に係る指導があり、管理者の自己研鑽の機会も多い。また、法人が行う内部研修を実施しており、オンラインによるリモート参加等でスキルアップを図る機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの支え合いネットワークに登録し同業者の研修会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前に家族や本人に話を聞き不安、要望を聞き出しケアに取り入れるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴、本人様の衣服の洗濯物干し、洗濯物たたみ等、自分で出来る事はやって頂いている。	利用者のエンパワメントを高める観点から、一人ひとりの意向を把握し、それに応じたケアに努めている。例えば、意向に合わせた柔軟な入浴支援や、利用者の役立ち感等の主体的活動の支援やそれぞれの嗜好に配慮した食事提供等に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて3か月ごとにプランの評価、見直しを行っている。会議の際グループワークをして意見交換している。	利用者や家族の意見を聞き取り、意見を踏まえて、カンファレンスの中で共有し、計画を作成している。また、見直し後の計画は、毎月のカンファレンスにおいて検討するとともに、3か月に1回、見直しを行っている。ADLの変化に合わせ、必要に応じて適宜見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットや個別の様子観察を毎日タブレットに入力し把握に努めている。申し送りの時に注意事項は、発表している。	記録についてはタブレット端末を活用して記入し、情報共有する等、ICT化を推進している。利用者の様子や職員の気づき、ヒヤリハット等について、特記事項も含めて記録に残し、職員間で共通理解している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様と時々話を聞き取り、要望等を取り入れている。	利用者のニーズオリエンテッドな観点から、本人や家族のニーズに合わせ、リハビリやマッサージ等の通院について提案したり、他科受診の同行支援を行う等、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に消防署員に参加して頂く。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と訪問看護を行っている。特変時でも24時間対応で指示が受けられるよう体制を整えている。	かかりつけ医の選択は自由であるが、入居前のかかりつけ医からホームの嘱託医に変更する方が多い。現在3名の嘱託医がおり、定期的な訪問診療以外でも緊急時の対応も可能である等、密な連携関係ができており、利用者・家族の安心につながっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が対応している。又、訪問看護師と相談ができる体制を整えている。	入退院時には、サマリー等の書面にて情報共有を行い、その後の生活がスムーズに運ぶよう対応している。退院時にカンファレンスが開催される場合には、管理者が出席し、退院後の支援体制づくりにつなげている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りを望まれる場合は、主治医と連絡を取りながら支援に取り組んでいる。	利用時に終末期の在り方や看取りの方針について、利用者・家族に説明するとともに、同意を得ている。ホームでの看取りを希望される場合、医師から家族や職員に説明を行うとともに、医療機関との連携の下に、利用者・家族の意向に沿った看取りケアを行っている。看取り後には、ケアの振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応手順書を見やすい位置に張り出している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしたり、会議の際勉強会を組み入れている。非常食や水等の備蓄品を用意している。	定期的に昼夜を想定した訓練を実施している。訓練は、地域のハザードを踏まえ、火災や地震等、様々な事態を想定した内容になっている。訓練の実施を通して、電灯の採光不足や懐中電池の配置の問題等について再確認ができています。食糧等もホーム内に3日分を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の理念に掲げ職員同士注意しあい適切な対応を個々で掛けている。	トイレ誘導時の声かけや扉の開閉、入浴の際の衣類の着脱時等、羞恥心に配慮した対応に心がけている。1人で入浴したい場合等、利用者の希望に応じて、柔軟な入浴支援に努めている。また、可能な限り同性介助を実施している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな時間に入浴したり、嫌いな副食は、代替食に変えるなど対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間にお昼寝、編み物をやって頂いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を聞き取りメニューに取り入れたり職員と一緒に下ごしらえをしながら、食事を楽しんで頂いている。	例えば、皮むきや包丁で野菜を切る等の作業をお願いしつつ、利用者ができることはやらせようよう支援している。毎年、屋外でのバーベキュー大会を実施したり、室内においても、年1回はバイキングを開催する等、利用者にとって食事が楽しみなものになるよう支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤の使用やミキサー食、小刻み食を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔ケア体操を行い、毎食後口腔ケアを行っている。歯科衛生士による口腔ケアも実施している。	口腔体操や毎食後の口腔ケアにより、誤嚥性肺炎の防止に努めている。毎週、歯科医師の訪問診療があり、必要に応じて、治療や歯科衛生士による口腔ケアも受けることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じたら自らトイレに行くように支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方は、好きな時間に入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をされたり、夜遅くまでテレビを観たり、友達同士遅くまで会話されている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人の服薬に対し、3名の職員が確認している。	薬は薬箱に仕分けされて保管している。服薬に際しては、介護職員複数名により、配薬、服薬前後の確認が行われ、誤配、落薬がないように注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き等をして頂いている。	利用者それぞれの生活スタイルを大切にしたい支援に努めており、利用者は、ぬり絵をしたり本を読んだり、思い思いに過ごしている。また、利用者の主体的な思いや心身状況を勘案しつつ、例えば、食事の下ごしらえや食後の食器洗い等、日常生活の中での役割をお願いしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ、インフルエンザ禍で外出ができていない。	現在も、コロナ禍の影響が続いており、以前のような外出の機会は無くなっている。そのため、室内でできることを行う等して、楽しんでもらっている。	コロナ感染症が5類に移行し、コロナ禍による制限が緩和されていけば、今後、感染予防に心がけた上で、散歩に出かけたり、買い物外出等を行う等が可能と思われるので、外出支援の充実に向けての取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度の高い方がおられお金はお預かりしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや電話のやり取りは何時でもできるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者手作りの物をホールや居室に壁に飾っている。	利用者の塗り絵等の作品や職員との協同作品の折り紙等、季節感を演出した作品が壁に飾られており、明るく家庭的な雰囲気が感じられる。利用者は、そこかしこでテレビを観たり、談笑したりする等して、思い思いに過ごしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気のあったもの同士が談笑したりテレビを観ている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際できるだけ今まで使用していた物を持ってきて頂くようお願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやダンス等物の位置を考え危険を回避するよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102541		
法人名	(株)グループホーム		
事業所名	六条の杜（B棟）		
所在地	岐阜県岐阜市六条片田一丁目21－6		
自己評価作成日	令和 6 年 2月26日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyouCd=2170102541-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

教育委員会の今年の目標として【職員全員が、利用者様を目上の方と敬える言葉遣い、声掛けができるよう接遇マナーを身に着ける】目標が達成できるよう、ロールプレイング等の勉強会を行い利用者様が不安なく安心できる生活が送れるよう支援していく。

栄養委員会の今年の目標として【昨年に使用したメニュー表の献立、分量の見直し職員不足にも対応できるよう改善する】昨年勉強した3代栄養素を基にメニューの見直しをし偏りを無くし利用者様が満足して頂ける食事作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の六条の杜の理念を申し送り後に復唱し改めて理念を心に刻みケアに入るよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ、インフルエンザ禍の為、外出ができず地域との繋がりは持てていない。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の家族様の出席は望めず、議事録を郵送し情報を伺う事ができた。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方を受け入れ毎月生活保護の担当者と連絡を取り合っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、身体拘束ゼロの方針で、チェック表を作成。カンファレンスの際チェックしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で研修を行い職員と情報共有したり、年2回虐待アンケートを取り防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおられる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書にて説明をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族様が面会時に要望を言われる事がありできる範囲で要望を聞いている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見のある職員には、管理者が話を聞いている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回人事考課において面談をする際、意見提案を聞いている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は経営や運営に関するレクチャーを月1回受けている。職員は認知症介護基礎研修eラーニングを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの支え合いネットワークに登録し同業者の研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前に家族や本人に話を聞き不安、要望を聞き出しケアに取り入れるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴、本人様の衣服の洗濯物干し、洗濯物たたみ等、自分で出来る事はやって頂いている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて3か月ごとにプランの評価、見直しを行っている。会議の際グループワークをして意見交換している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットや個別の様子観察を毎日タブレットに入力し把握に努めている。申し送りの時に注意事項は、発表している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様と時々話を聞き取り、要望等を取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に消防署員に参加して頂く。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と訪問看護を行っている。特変時でも24時間対応で指示が受けられるよう体制を整えている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が対応している。又、訪問看護師と相談ができる体制を整えている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りを望まれる場合は、主治医と連絡を取りながら支援に取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応手順書を見やすい位置に張り出している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしたり、会議の際勉強会を組み入れている。非常食や水等の備蓄品を用意している。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の理念に掲げ職員同士注意しあい適切な対応を個々炉掛けしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな時間に入浴したり、嫌いな副食は、代替食に変えるなど対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間にお昼寝、塗り絵をやって頂いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を聞き取りメニューに取り入れたり職員と一緒に下ごしらえをしながら、食事を楽しんで頂いている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤の使用やミキサー食、小刻み食を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔ケア体操を行い、毎食後口腔ケアを行っている。歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じたら自らトイレに行くように支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方は、好きな時間に入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をされたり、夜遅くまでテレビを観たり、友達同士遅くまで会話されている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人の服薬に対し、3名の職員が確認している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き等をして頂いている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ、インフルエンザ禍で外出ができていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度の高い方がおられお金はお預かりしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや電話のやり取りは何時でもできるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者手作りの物をホールや居室に壁に飾っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気のあったもの同士が談笑したりテレビを観ている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際できるだけ今まで使用していた物を持ってきて頂くようお願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやタンス等物の位置を考え危険を回避するよう工夫している。		